

問一

人が「都市」に住まうことを、旧来の束縛からの解放や洗練された生活の享受であると、表面的に理解すること。  
（解答欄 2 行）

問二

都市化は、人間が暮らしやすくするために人工的な構造物で自然の荒々しさを和らげると同時に、そうすることで人と自然との濃密な関わりを希薄にしまったということ。  
（解答欄 3 行）

問三

自然との関わりを保って生活することではじめて、人は人類と自然とのあいだに長い歴史を通じて培われてきた自らの存在の確かさを実感して生きることができるといふこと。  
（解答欄 3 行）

問四

他者の存在を無化し、人を人とみなさないような人々のあいだで生きるとは自らの心を失うことに等しく、心のありようを表情に表し出す人々のあいだで生きて、互いが人として存在していると認め合うことが大切だと考えている。  
（解答欄 4 行）

問一

欠点だらけで、付き合うのも無駄だと思っていたその友人こそ、私自身の駄目さ加減を引き受けてくれ、生の支えとなるかけがえのない存在であったということ。

（解答欄 3 行）

問二

友人もまた、素の自分をさらすことができ、無駄な時間を一緒に過ごせる気の置けない相手として、短所だらけの自分を友だちとして見出し生きてきたということ。

（解答欄 3 行）

問三

付き合うことで世俗的な実利が得られるわけでもない人物でありながら、無駄な時間とともに過ごすことで、欠点だらけの自分が何とか生を育むことができた、そのかけがえのない友だちとの邂逅をありがたく感じたから。

（解答欄 4 行）

問一

注意しているようなので、ほとんど間違ふことはないのに、  
（解答欄 1 行）

問二

仮名遣いは、初心者が間違つてもしかたない助詞などの使  
い方とは異なり、良い参考書があつて、調べれば誰でも誤  
りに気付くだろうに、弟子たちの和歌には、不注意なのか  
確認を怠っているのか、誤りが多いこと。  
（解答欄 4 行）

問三

どんなことでも、自分から努力しないでは、成し遂げるこ  
とは難しいに違いないことだよ。  
（解答欄 2 行）